



# 総合教育センターだより

平成21年11月16日(月)

第8号(通算第91号)

京都府総合教育センター

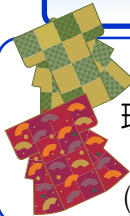
TEL 075-612-3266

## Be Connected

京都の文化を発信

## 京都ならではの講座

京都の伝統を継承



児童生徒が京都の歴史や文化を学び、それぞれの地域における伝統・文化について理解を深めるためには、教職員がまず興味を持ち触れてみるのが大切だと思います。

京都の豊富な人的・知的資源を生かした講座として、「京のひと・まちづくり講座」

(10月13日)「京の教育『みやび』講座」(10月19日)を実施しましたので紹介します。

### 京のひと・まちづくり講座



- 現存する唯一の公家屋敷である冷泉家を見学し、「ふるさと京都」の歴史や文化への認識を深め、地域教材などの活用を生かすことをねらいに実施しました。
- 京都府教育委員会冷泉貴実子委員長職務代理者(財団法人冷泉家時雨亭文庫事務局長)から800年にわたる「冷泉家の年中行事と和歌」についてご講義いただきました。
- ◆ 受講者からの感想◆  
「重要文化財の建物の中に、今に伝わる伝統・文化を垣間見ることができた」「日本人の心の淵源に触れることができた」

### 京の教育「みやび」講座



- 児童生徒が京都の伝統や文化を学ぶという教育活動につなぐことをねらいに校長・副校長・教頭を対象に府立嵯峨野高等学校で実施しました。
- 「茶の心」を村井康彦国際日本文化研究センター名誉教授に、「茶会のマナー」を表千家堀内流茶道家千葉宗立氏に、「茶道体験」を同流派茶道家中井一氏にご指導いただき体験しました。
- ◆ 受講者からの感想◆  
「第一人者の『語り』から“京都らしさ”“京都のよさ”を深める機会になった」

## コミュニケーション能力とチームマネジメント能力



本年度、研修講座を4領域に区分し、研修の目的を明確化しました。特に対人関係の基本であり、信頼関係を築いていくための「コミュニケーション能力」と教職員の資質・能力を高め、学校組織を活性化させるための「チームマネジメント能力」の向上を図る研修は、**教科・領域**に加え、今後学校を取り巻く新しい課題に対応していく上でますます重要となります。今回は、その中から、一部の講座を紹介します。

### コミュニケーション能力

#### 8/6授業に生かせる コーチング講座

- コーチングとは、相手の可能性を引き出し、その人の自発的な行動を促進し、サポートしていくコミュニケーションスキルのことです。



#### 8/19プレゼンテーション能力 「話し方」向上講座

- プレゼンテーションとは、相手の事情に合わせ、自分の伝えたい内容を伝達することにより、相手の行動を誘発することです。



### チームマネジメント能力

#### 8/6地域とともに歩む 「学校内外環境分析」講座

- チームマネジメントでは、学校内外の視点から現状分析し、自校の強みを生かした保護者や地域社会と協働することが求められます。



#### 10/2危機管理講座

- 危機管理とは、3つの局面(平常時・緊急時・収束時)における組織がとる対策と手順であり、常に意識することが重要です。





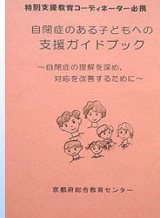
# 「気付けば変わる 子どもの行動」シリーズI

～「自閉症のある子どもへの支援ガイドブック」から～

action

本年、発行した冊子「自閉症のある子どもへの支援ガイドブック」には、主に二つのねらいがあります。一つは、具体例を通して自閉症への理解を深め、自らの対応を振り返りながら、効果的な支援を見つけ出すことです。二つめは、自閉症をはじめとする発達障害に限定するのではなく、すべての子どもに対して有効な対策を示すことです。

これから3回にわたって、「**気付けば変わる 子どもの行動**」をテーマに、気になる子どもへの対応を考えてみたいと思います。



**Q** 「支援ガイドブック」の対応は、自閉症以外の児童生徒たちの指導にも有効とのことですが・・・？

**A**

教師が自らの対応をふりかえり、指導を見直すときに大変参考になります。

近年、よく、気になる子どもの対応に苦慮するという声が聞かれます。このガイドブックでは、自閉症をとりあげていますが、「子どもの行動をどう理解するか」という意味では、発達障害のある子どもたちに限らず、**気になる子どもへの対応**を考えるときに役立ちます。

まず気付きたいのは、行動は単独でそれだけが存在するのではなく、**周囲の環境との相互作用**によって成立するという事です。この場合の環境とは、教師や保護者の対応も含まれます。

**よかれと思っている働きかけが逆効果になっている**という例も少なくありません。自閉症の特性や自閉症のある子どもへの対応について、「適切とされる対応」の**背景にある意味を十分に理解**していないと、その子どもやその場に合わない「機械的な対応」になったり、自閉症のある子どもには合わない「一般的な対応」をしていたりして、子どもを混乱させ、追い詰めることにつながるのではないのでしょうか。

このことに**気付くこと**が子どもも教師や保護者も変わるきっかけになります。

(「自閉症のある子どもへの支援ガイドブック」P. 4「わかってよ!」、P. 6「そんなことはしたくない!」等をご覧ください)



今回は、子どもの行動をどのようにとらえれば、効果的な支援ができるのかを考えます。



「自閉症のある子どもへの支援ガイドブック」は下記からダウンロードができます。  
<http://www1.kyoto-be.ne.jp/ed-center/tokubetu/20-kenkyu/index.html>



～センターからの一言～  
会うと**楽しく**なる、**元気**になる、**勇気**が湧く。そんな**先生**でありたい。

